

SONY
make.believe

Interim Report

2012年3月期 中間報告書

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ソニーグループの2011年度上半期(2011年4月1日から9月30日まで)の中間報告書をお届けするにあたりまして、ひとことごあいさつ申し上げます。

当上半期の連結業績は、本年7月時点の想定からは改善したものの、欧米の景気低迷にともなう需要の減少や価格競争の激化、欧州の金融不安、円高の進行、タイの洪水の影響など、ソニーを取り巻く事業環境は一層厳しさを増しています。

このような中、まず、最優先課題であるテレビ事業の収益改善に向け、グループ全体においてテレビ事業の経営体質強化及び収益性改善を図るための諸施策を実施してまいります。

また、携帯電話事業を営むソニー・エリクソンをソニーの100%子会社とすることで合意しました。これにより、PC、タブレット、テレビなど、ソニーの幅広いネットワーク対応コンシューマー製品群の中にスマートフォンをより迅速に組み込んでいくことが可能となり、ソニーが運営するネットワークサービスやソニーが保有する映画・音楽・ゲームなど全てのコンテンツと組み合わせることによって、お客様の利便性向上と事業の成長に努めてまいり所存です。

なお、2011年度の中間配当金につきましては、前年度の中間配当金と同額の1株につき12円50銭とし、本年12月1日を支払開始日とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年11月



代表執行役
会長 兼 社長 CEO
ハワード・ストリンガー

01

業績ハイライト (2011年度上半期連結業績)

売上高及び営業収入 3兆699億円 (△9.6%)

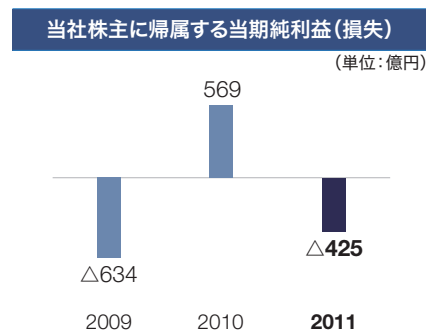
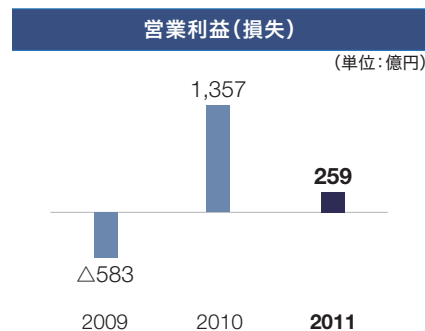
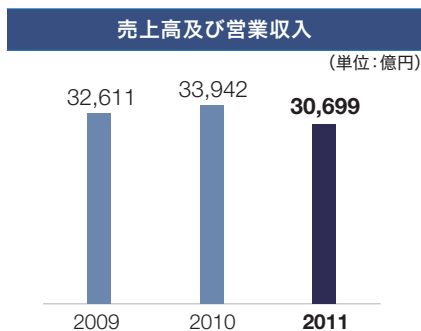
営業利益 259億円 (△80.9%)

税引前利益 232億円 (△83.6%)

当社株主に帰属する当期純利益(損失) △425億円 (—)

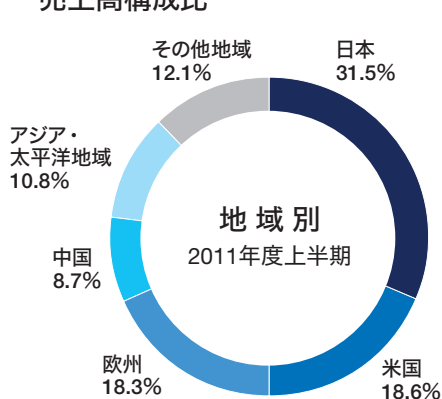
■コンシューマープロダクツ&サービス分野(液晶テレビなど)及びプロフェッショナル・デバイス&ソリューション分野(コンポーネントなど)における減収・損益悪化により、連結売上高・営業利益ともに前年同期に比べ減少

* ()は前年同期比



02

売上高構成比

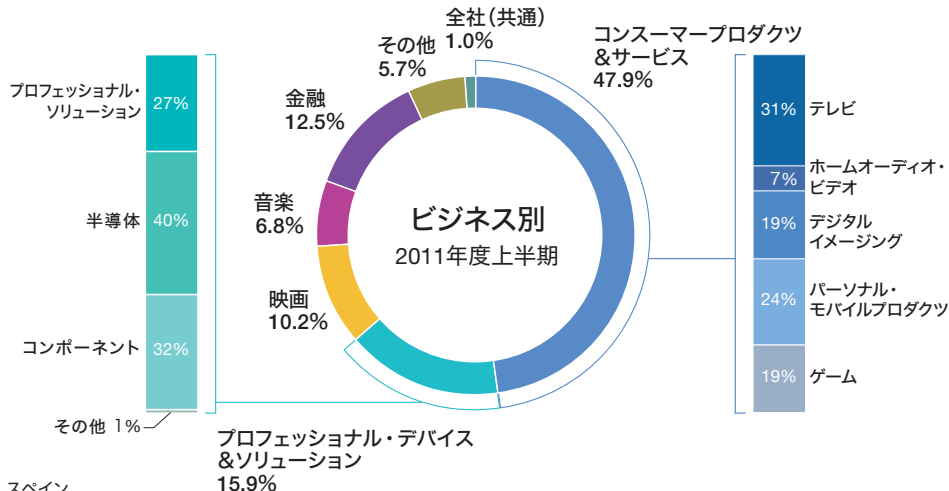


日本、米国及び中国以外の各区分に属する主な地域

- 欧州： イギリス、フランス、ドイツ、ロシア、スペイン
- アジア・太平洋地域： インド、韓国、オセアニア
- その他地域： 中近東/アフリカ、ブラジル、メキシコ、カナダ

(注1) 地域別及びビジネス別の売上高構成比は、外部顧客に対する売上高及び営業収入にもとづいて算出したものです。

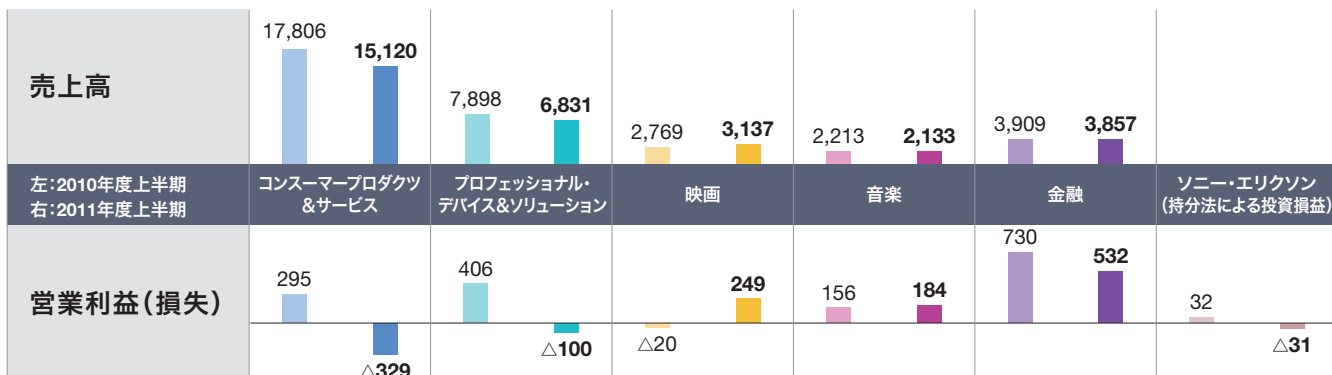
(注2) 地域別の売上高構成比は、顧客の所在地別に表示されています。



ビジネス別営業の概況

以下の説明における各分野の売上高及び営業収入(売上高)はセグメント間取引消去前のものであり、また各分野の営業損益はセグメント間取引消去前のもので配賦不能費用は含まれていません。

(単位: 億円)



(注1) ソニーは、2011年4月1日付の組織変更にもとない、2011年度より、主にコンシューマー・プロフェッショナル&デバイス分野及びネットワークプロダクツ&サービス分野を従来構成していた事業を再編し、業績報告におけるビジネスセグメント区分の変更を行いました。この変更にもとない、2010年度の実績を修正再表示しています。

(注2) ソニー・エリクソン(携帯電話事業の合併会社)の持分法による投資損益については、単独のセグメントとして表示しています。当上半期においては、主に東日本大震災にともなう主要部品の供給不足による販売台数の減少により、前年同期の32億円の利益に対し、31億円の損失となりました。

■ コンシューマープロダクツ&サービス分野

テレビ事業、ホームオーディオ・ビデオ事業、デジタルイメージング事業、パーソナル・モバイルプロダクツ事業、ゲーム事業などで構成されています。

売上高(1兆5,120億円) 前年同期比15.1%の減少 (外部顧客に対する売上は前年同期比15.2%の減少)

減収の要因

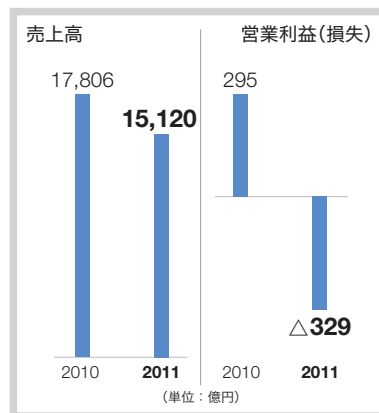
- 欧米の市場環境悪化などによる価格下落及び為替の悪影響を受けた液晶テレビ、価格競争の影響を受けたPCなどの減収

営業損失(329億円) 前年同期比624億円の悪化

損益悪化の要因

- 減収にともなう売上総利益の減少、売上原価率の悪化など
- 営業損失には、S-LCD(液晶パネル製造の合併会社)の低稼働率に起因する追加的な液晶パネル関連費用及び液晶テレビ関連資産の減損86億円が含まれる
- 分野全体の損益変動にマイナスの影響を与えたカテゴリー*
 - 原価及び費用削減よりも価格下落の影響が大きかった液晶テレビ、年末商戦に向けて戦略的に実施した「プレイステーション 3」のハードウェア価格改定の影響を受け、売上が減少したゲームなど

*構造改革費用を除くベース



05

■ プロフェッショナル・デバイス&ソリューション分野

プロフェッショナル・ソリューション事業、半導体事業、コンポーネント事業などで構成されています。

売上高(6,831億円) 前年同期比13.5%の減少 (外部顧客に対する売上は前年同期比9.8%の減少)

減収の要因

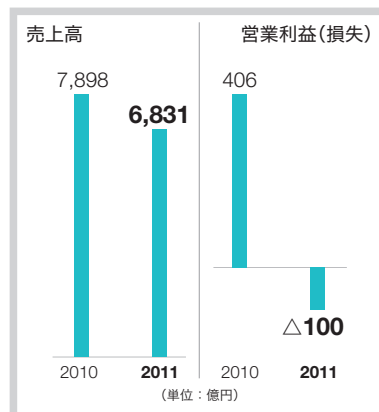
- 製品カテゴリーとしてのコンポーネントの減収、為替の悪影響など
 - 東日本大震災により製造設備が被災し生産能力が低下した影響を受けた電池の売上減少に加え、同様の被害や市場縮小の影響を受けたストレージメディアの売上減少など

営業損失(100億円) 前年同期比506億円の悪化

損益悪化の要因

- 構造改革費用の大幅な増加、減収による売上総利益の減少、為替の悪影響など
- 構造改革費用には、今後実施予定の、(株)産業革新機構を中心として設立及び運営される新会社への中小型ディスプレイ事業売却にともなう資産の減損184億円が含まれる
- 分野全体の損益変動にマイナスの影響を与えたカテゴリー*
 - 売上が減少したコンポーネントなど

*構造改革費用を除くベース



06

映画分野

米国を拠点とするソニー・ピクチャーズ エンタテインメント(SPE)による映画及びテレビ番組などの事業で構成されています。

売上高(3,137億円) 前年同期比13.3%の増加

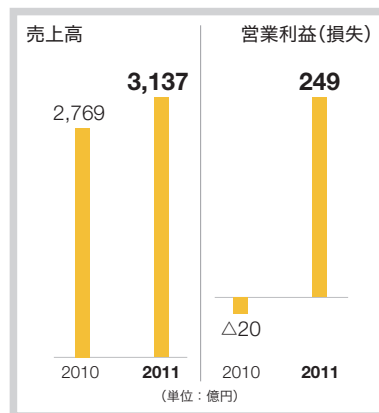
増収の要因

- スパイダーマン関連商品売上の分配を受領する権利を売却したこと、SPEが保有するインドのテレビネットワークにおける広告収入が増加したこと、前年同期は持分法適用会社であったGame Show Network, LLCが連結対象となり同社の売上が計上されたことなど

営業利益(249億円) 前年同期比269億円の改善

損益改善の要因

- 上記のスパイダーマン関連商品に関する権利売却にともなう利益214億円を計上したことなど



07

音楽分野

米国を拠点とするソニー・ミュージックエンタテインメント及び日本の㈱ソニー・ミュージックエンタテインメントによる音楽制作事業などで構成されています。

売上高(2,133億円) 前年同期比3.6%の減少

減収の要因

- 円高の影響など

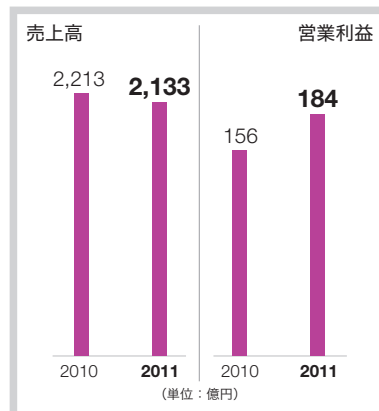
当上半期にヒットした作品

アデル「21」、ピオンセ「4」、米国の人気テレビ番組「Glee」出演者の楽曲を集めたアルバム、ピットブル「プラネット・ピット」、フー・ファイターズ「ウェイスティング・ライト」など

営業利益(184億円) 前年同期比18.1%の増加

増益の要因

- 複数の主要作品が米国においてヒットしたこと、デジタル配信ライセンス料に関連する一時的な収益の計上があったこと



08

金融分野

ソニー生命保険株(ソニー生命)、ソニー損害保険株、ソニー銀行株を傘下におくソニーフィナンシャルホールディングス株(SFH)などによる金融事業で構成されています。

金融ビジネス収入(3,857億円) 前年同期比1.3%の減少

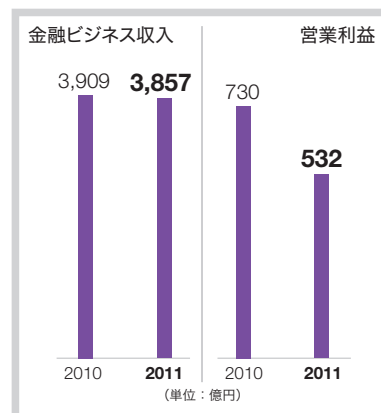
減収の要因

- リース・レンタル事業の非連結化などによる株ソニーファイナンスインターナショナルの減収

営業利益(532億円) 前年同期比27.1%の減少

減益の要因

- 主にソニー生命の減益
 - 一般勘定における有価証券売却益の減少など



*左記のソニー生命の業績は米国会計原則に則って算出されていますので、SFH及びソニー生命が日本の会計原則に則って個別に開示している業績とは異なります。

主要連結財務データ

	2009年度		2010年度		2011年度
	上半期	通期	上半期	通期	上半期
売上高及び営業収入	32,611	72,140	33,942	71,813	30,699
営業利益(損失)	△583	318	1,357	1,998	259
税引前利益(損失)	△500	269	1,416	2,050	232
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	△634	△408	569	△2,596	△425
基本的1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(円)	△63.18	△40.66	56.68	△258.66	△42.33
設備投資額	1,051	1,927	861	2,049	1,682
研究開発費	2,090	4,320	2,060	4,268	2,043
総資産	124,738	128,661	130,098	129,250	128,698
純資産	31,684	32,856	32,189	29,366	27,778
1株当たり純資産(円)	2,872.48	2,955.47	2,871.12	2,538.89	2,360.39

(注1)ソニーは、持分法による投資損益を営業利益(損失)の一部として表示しています。

(注2)ソニーは、2009年4月1日から、連結財務諸表における非支配持分に関する会計基準にしたがい、表示及び開示に関してこの基準を適用しました。これにより、従来、連結貸借対照表上の負債の部と資本の部の中間に独立の科目として表示していた少数株主持分を、非支配持分として連結貸借対照表上の資本の部に含めて表示しています。また、連結損益計算書上の当期純利益(損失)は、非支配持分に帰属する当期純利益(損失)を含めて表示しています。

(注3)純資産は、米国会計原則にもとづく資本合計を使用しています。

(注4)1株当たり純資産は、当社株主に帰属する資本合計を用いて算出しています。

トピックス

ソニー・エリクソンを完全子会社化

ソニーのネットワーク・コンシューマー製品群と融合

2011年10月27日、ソニーは、エリクソン社との間で、同社が保有するソニー・エリクソンの50%の株式を取得し、携帯電話事業を営むソニー・エリクソンをソニーの100%子会社とすることで合意しました。また、同時に、ソニーの全ての製品及びサービスを対象とする広範な知的財産権のクロスライセンス、ならびにワイヤレスモバイル技術に関する5つの重要特許群を獲得しました。なお、今回の取引は、各国において必要とされる政府当局又は監督官庁の承認を得たうえで実行される見込みです。

スマートフォンという成長事業を統合し、同時に、広範なクロスライセンスを含む戦略上大変重要な知的財産権へのアクセスを取得することで、スマートフォン、タブレット、PC、テレビという4つのスクリーンをシームレスに連携させる“フォー・スクリーン戦略”の体制が整いました。ソニーは、これらの製品とソニー自身が運営するネットワークサービスであるプレイステーションネットワークやソニーエンタテインメントネットワークを通じて、新しいオンラインエンタテインメントの世界を開拓していきます。

デジタルイメージングを支える ソニーのイメージセンサー

イメージセンサーは、デジタルビデオカメラやデジタルカメラの眼ともいえる撮像素子です。ソニーはイメージセンサーの独自開発に取り組んでおり、近年はCMOSイメージセンサーの高画質化と高速化技術の開発を進めてきました。

裏面照射型CMOSイメージセンサー“Exmor R”（エクスマア アール）は、シリコン基板を反転させた面（裏面）から光を当てることで、効率的に光を取り入れ、小型ながらも高感度を実現でき、コンパクトデジタルカメラや携帯電話向けに活躍しています。一方、レンズ交換式デジタル一眼カメラでは、大判イメージセンサー“Exmor”が搭載され、被写体の細部まで映し出す高解像度と豊かな階調表現を実現しています。

ソニーのCMOSイメージセンサーは様々なメーカーからも高く評価され、2009年度より世界トップシェア（金額ベース）となりました。今後もCMOSイメージセンサー事業を増強し、デジタルビデオカメラやデジタルカメラのさらなる高画質化の実現に貢献していきます。



テレビ事業の収益改善プラン

量の拡大から、安定的収益基盤の確立への転換

2011年11月2日、ソニーは、グループ全体においてテレビ事業の経営体質強化及び収益性改善を図るための諸施策を発表しました。今回の施策実施により、2012年度にテレビ事業の営業損失を半減、2013年度に黒字化をめざします。

2009年11月に発表した中期計画においては、「液晶テレビ市場の継続的な高成長」を前提に、2012年度に市場シェア20%、販売台数4,000万台体制を構築することを目標としました。しかしながら、その後の業界成長の鈍化や液晶パネルの供給過剰などの大きな環境変化を踏まえ、今年度（2011年度）の全世界販売台数見込みを2,000万台に変更するとともに、その規模においても安定的収益基盤を確立するために、以下の改善策を実施してまいります。

- 液晶パネル関連コストの改善
- 商品力強化とオペレーション改善による限界利益率改善
- 販売会社における販管費の削減、研究開発費の効率化、間接コスト削減

新商品ラインアップ



高い撮影能力と小型軽量性を実現
● レンズ交換式デジタル一眼カメラ
NEX-5N



歩いてもズームでも、ブレなくきれいなフルハイビジョン撮影が可能
● ハイビジョンビデオカメラ
“ハンディカム”
HDR-CX560V



高速・高精度のオートフォーカスによる高い連写性能を実現
● レンズ交換式デジタル一眼カメラ
alpha 77



薄型ボディながら光学10倍相当のズームを搭載
● デジタルカメラ
“サイバショット”
DSC-WX30

新商品情報

▶ソニー製品情報ウェブサイト <http://www.sony.jp/>



● 液晶テレビ(ブラビア)

KDL-65HX920

データベース型複数枚超解像技術を採用した高画質回路「X-Reality PRO」や、直下型LED部分駆動のバックライトを搭載し、画質にこだわったモデルです。映像本来が持つ鮮鋭感や高コントラストな映像を再現し、65V型の大画面で、より迫力あるハイビジョン映像・3D映像をお楽しみいただけます。

*3D映像の視聴には、別売の「3Dメガネ」が必要です。

● ブルーレイディスク™/DVDレコーダー

BDZ-AT970T

3つのデジタルチューナーを搭載し、業界で初めて*3番組同時フルハイビジョン長時間録画を実現した、3D対応ブルーレイディスクレコーダーです。外付けUSBハードディスク(別売り)に対応しており、録画容量を後から簡単に増やすことができます。

*国内ブルーレイディスクレコーダー市場において(2011年8月発表時点)



● パersonalコンピュータ VAIO「Zシリーズ」

VPCZ219FJ/B

起動や画像処理の高速化などの高性能と、優れた携帯性を両立した、13.1型ワイド液晶搭載のノートPCです。DVDスーパーマルチディスクドライブなどを搭載した、付属の「Power Media Dock」に接続することにより、画像処理性能や拡張性などを一層向上させることができます。



一人ひとりの楽しみを、この一台に。みんなのタブレット

“Sony Tablet”

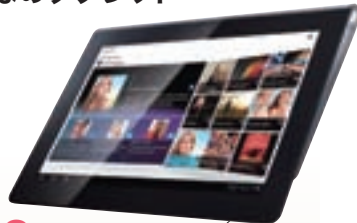
「映画やゲームを好きなどころで気軽に楽しんだり。音楽を聴きながら本を読んだり、Webを見たり。」“Sony Tablet”なら、多彩なコンテンツをいつでもどこでも自由なスタイルで楽しめます。持ちやすさや携帯のしやすさを追求した独自のデザインを採用、サクサクとした快適な操作感でネットワークサービスやアプリケーションを楽しめるAndroid™ 搭載タブレットデバイス“Sony Tablet” 2機種です。

*AndroidはGoogle Inc.の商標又は登録商標です。



P シリーズ

5.5型ディスプレイを2つ搭載し、折りたたんでコンパクトに持ち運べるユニークなデザイン。180度開いてひとつのフラットな大画面として使用するなど、デュアルディスプレイならではの多様なスタイルでコンテンツを楽しむことができます。



S シリーズ

重心を片側に寄せた偏重心デザインを採用することで、9.4型ワイドの大画面を搭載しながら、手にしたときの軽量感と持ちやすさを実現するなど、長時間使用での快適性を追求しています。

13

次世代携帯型エンタテインメントシステム

「PlayStation®Vita(プレイステーション ヴィータ)」(PS Vita)

PS Vitaは、最先端のエンタテインメント体験をさらに進化させ、高品質なゲームの世界を現実に取り込みつつ、現実の体験と連動するような革新的な遊びを可能にし、「プレイステーション」のDNAの核である、深く、没入感のあるゲーム体験をユーザーの皆様にお届けします。

PS Vitaは、Wi-Fi方式に加えて、新たに3Gネットワークへのアクセスにも対応、様々なアプリケーションとの連動により、日常生活の中で他のユーザーとの新たな「出会い」、「つながり」、「発見」、「共有」、「遊び」といった無限の可能性をお楽しみいただけます。

日本では2011年12月17日、欧米では2012年2月22日から発売する予定です。

©2011 Sony Computer Entertainment Inc. All rights reserved.
Design and specifications are subject to change without notice.
Screen Image Simulated.



PS VITA
PlayStation Vita

14

ヘッドマウントディスプレイ

“Personal 3D Viewer” HMZ-T1

世界初*の「HD有機ELパネル」を搭載した3D対応ヘッドマウントディスプレイです。頭部に装着することで、映画館クラスの仮想ワイドスクリーンが目の前に広がり、2D及び3Dのフルハイビジョンコンテンツを楽しむことができます。

*民生用3D対応ヘッドマウントディスプレイとして(2011年8月発表時点)



* XperiaはSony Ericsson Mobile Communications ABの商標又は登録商標です。
* AndroidはGoogle Inc.の商標又は登録商標です。
* おサイフケータイは株式会社NTTドコモの商標又は登録商標です。

“ウォークマン” Zシリーズ

NW-Z1070/NW-Z1060/NW-Z1050

独自の高音質技術を採用し、“ウォークマン”史上最高音質を実現。Android™ 2.3を搭載し、Android マーケット™対応によって、多彩なアプリケーションをお楽しみいただけるほか、“ウォークマン”独自の機能で音楽の新たな楽しみ方を提供します。

* Android、AndroidマーケットはGoogle Inc.の商標又は登録商標です。



ホームエネルギーサーバー

CP-S300E/W

コンパクトなデザインと簡単操作でご家庭の節電・充電対策などをサポートする家庭用小型蓄電池です。ご家庭のコンセントから直接充電できるほか、約300ワット時の蓄電容量により液晶テレビなら約2時間半、照明器具なら約10時間の使用が可能*です。

*電力供給時間は、ACコンセント1口のみ使用の場合で、各機器の想定消費電力(液晶テレビ[40型以下、100W]、照明器具[25W])にもとづく算出値



新作映画情報

▶ <http://www.sonypictures.jp/>



● アーサー・クリスマスの大冒険

©2011 Columbia Pictures Industries, Inc. All rights reserved.

サンタはどうやって世界中の子ども達に一晚でクリスマスプレゼントを配れるの? 英国の名門アニメスタジオ「アードマン」とソニー・ピクチャーズ アニメーションのコラボレーション第1弾となる奇想天外な3Dアニメーション。(2011年11月23日 日本公開)



● 永遠の僕たち

©2011 Sony Pictures Entertainment Inc. All rights reserved.

死にとらわれた少年と余命3カ月の少女が繰り広げる、ピュアでエモーショナルでちょっぴり不思議なラブストーリー。死の世界からきた日本人青年役で加瀬亮が出演しているのも話題。監督は名匠ガス・ヴァン・サント。(2011年12月23日 日本公開予定)

最新アルバム情報

▶ <http://www.sonymusic.co.jp/>



● YUI

HOW CRAZY YOUR LOVE

YUIが6枚目のアルバムをリリース。ティーンの間でカリスマ的な人気を誇るYUIは、今やアジア全土からも熱狂的な支持を得ています。アジアのJ-POPファンからも注目の一枚。

● マイケル・ジャクソン イモータル

2011年10月2日にモントリオールで開催したシルク・ドゥ・ソレイユ公演『Michael Jackson THE IMMORTAL』のために、40曲以上ものオリジナル音源をマッシュ・アップし、新編された音楽のタペストリーにして革新的な最新作。



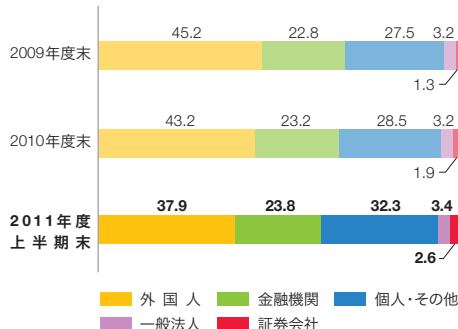
株式の状況 (2011年9月30日現在)

発行可能株式総数	3,600,000,000株	単元株式数	100株
発行済株式の総数	1,004,638,164株	上場証券取引所	東京・大阪
株主数	737,289名		ニューヨーク・ロンドン

株式の所有者別状況

	2009年度末 (2010年3月31日現在)		2010年度末 (2011年3月31日現在)		2011年度上半期末 (2011年9月30日現在)	
	千株	名	千株	名	千株	名
■ 外国人	453,778	1,400	434,214	1,377	381,022	1,356
■ 金融機関	229,011	220	232,697	213	239,482	199
■ 個人・その他	276,703	686,311	286,552	692,569	323,964	731,575
■ 一般法人	32,310	3,906	32,575	3,904	33,774	4,051
■ 証券会社	12,770	64	18,599	92	26,396	108
合計	1,004,571	691,901	1,004,637	698,155	1,004,638	737,289

所有者別の持株比率(%)



▶大株主の状況は、投資家情報ウェブサイトの「株式・社債情報」をご覧ください。

株主メモ

株主の皆様への情報提供

株主の皆様のお手元にお届けしている「報告書」(年2回)に加え、四半期ごとに「電子ブック版報告書」を投資家情報ウェブサイトに掲載しています。

日程	発行物	発信方法
8月中旬	第1四半期報告書	ウェブ
11月下旬	中間報告書	郵送 ウェブ
2月中旬	第3四半期報告書	ウェブ
6月上旬	報告書	郵送 ウェブ

投資家情報ウェブサイト

<http://www.sony.co.jp/IR/>

トップマネジメントからのメッセージや業績、新製品・新技術などの情報をタイムリーに提供しています。

CSR(企業の社会的責任)ウェブサイト

<http://www.sony.co.jp/csr/>

企業の社会的責任に関する詳細情報をタイムリーに提供するとともに、その概要を簡潔にご報告する「CSRレポート エグゼクティブ・サマリー」を掲載しています。

株式事務に関するお問い合わせ先

株主様の各種手続き(住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取・買増請求など)の窓口については、ご所有の株式が記録されている口座によって異なりますので、ご注意ください。

証券会社に口座を開設されている株主様	お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。
「特別口座*」に記録されている株主様	当社の特別口座管理機関(兼 株主名簿管理人)である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (通話料無料)

* 株券電子化実施日(2009年1月5日)において「株式会社証券保管振替機構(ほふり)」をご利用でない株主様の権利を確保するために、当社が当該株主様の名義で開設した口座です。

右のカードを切り取ってご利用ください。
株主様専用フリーダイヤルを設置しました。